
ソラミヤゲ

風紙文

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ソラミヤゲ

【Nコード】
N3541U

【作者名】
風紙文

【あらすじ】
ある日旅人は、平野にキャンプを見つけた。

ある日、旅人は集う人達を見つけた。

それは、旅商人のキャンプだった。

旅商人とは、旅をしながら村や町に商売を行う集団、あるいは個人を指す言葉で、かくゆう旅人も、旅商人であつた。

旅人はキャンプに近づいた。すると、一人の青年が気付いた。

こんにちは、旅人は挨拶する。

「こんにちは旅人さん」

青年も返した。

ここでキャンプですか？ 旅人は訊ねる。

「ああ、親方が、今日はソラミアゲの日だつてんで。昨日からここに泊まつてんだ」

ソラミアゲ？ 旅人は首を傾げた。

「何でも空を見上げるつてそのまんまらしいんだけどよく分からねえんだよ。俺、ここに入つてまだ一年経つてないから」

すると、

「お？ 旅人か？」

青年の後ろから日に焼けて黒い男性が現れた。

こんにちは、旅人は挨拶する。

「おう、旅人さんもソラミアゲ目的かい？」

ソラミアゲとは何ですか？ 旅人は訊ねる。

「違うぜ旅人さん、ソラミ、ヤゲだ。ミ、アゲじゃなくてな」

ミ、ヤ、ゲ、ですか？ 旅人は首を傾げる。

「え？ ミヤゲなんすか？ 俺てつきりミアゲかと」

「まあそんぐらいの聞き違いはあるだろ。オレだつて親方に直されたからな」

なるほど、旅人は納得した。

「で、このやり取りの限り旅人さんはソラミアゲ目的じゃなさそう

だな」

はい、偶然見つけたので、と旅人は答えた。

「じゃあ旅人さんは運が良いぜ。なんとって今日はソラミヤゲの日だからな」

自分も参加してよいのですか？ 旅人は訊ねた。

「問題無い……とは思うが、一応親方に聞いてみるべきかな。ちょい待ってな、すぐ親方を呼んで……」

その時、

「その必要は無い」

キャンプの中から髭をはやした筋骨隆々の男がこちらへ歩いてきた。彼が親方なのだろう、と旅人は思った。

「旅人さん。アンタもソラミヤゲやってくかい？ 別に強制はしないぜ」

親方に言われた旅人は少し考えてから。

はい、是非とも、と答えた。

キャンプから少し離れた平野に来た。

旅人の隣には親方が立っている。

「もうそろそろだ。野郎共！ 気を抜くなよ！」

おー！ 旅商人の声が響く。

今からソラミヤゲが始まるんですか？ 旅人は親方に訊ねながら回りを見た。

特にへんてつの無い、殺風景な平野に等間隔を開けて並ぶ男達。全てキャンプにいた旅商人の仲間だ。彼らは手に各々、籠や網といった何かを取って入れる道具を持っている。かくゆう旅人も、一抱えある籠が持たされていた。

「そうだ。年に一回、この平野でソラミヤゲが行われるのさ……お

つと」

親方が懐中時計を見て呟いた。

「さあ始まるぜ、野郎共！ 空を見上げろ！」

おー！ 親方の合図と共に旅商人達が一斉に空を見上げた。

旅人も、合わせて空を見上げる。

雲の少ない、青々とした空が広がっている。

特に何かが起こるようなことは……

その時だった、

「来たぞ！」

旅商人の一人が叫んだ。

見てみると、上空にぽつんと黒い点のような物があった。

点はみるみる内に大きくなっていき……その姿がはつきり見えた。

それは、液体の入った瓶だった。

「絶対落とすじゃねえぞ！」

親方の命令に一人の旅商人が動いた。瓶の落下予測地点に先回りして籠を構える。

そして、落ちてきた瓶を籠に割ることなく収めた。

それを皮切りに、空から幾つもの物が降ってきた。

瓶、書物、書物、布、多種様々な物を旅商人達は籠や網でキャッチしていった。

その光景を旅人が驚きの表情で見ていると、親方が説明を始めた。

「ここは一年に一度色んな場所の特産品とかが降ってくるんだ。どうしてこんな事が起こるか説明出来ないが……空からの土産物だと思っただんだよ」

空からの土産物……、旅人は空を見上げながら呟いた。

「空つてのは、ずっとそこに止まってるわけじゃねえ。それこそありとあらゆる場所を見て回ってる。その土地土地で見つけた物を、一年回って戻ってきたここに、土産として置いていってるんだとさ」なるほど、旅人は納得した。

「ほらアンタも遠慮することはねえぞ。アンタが取った物は全部アンタのだ」

ありがとうございます、旅人はお礼を言々と籠を持って、ソラミヤゲを取りに走った。

空を見上げると、空からの土産物。

ソラミアゲにより、ソラミヤゲは取る事が出来る。

（後書き）

空は季節によって高さが違う。それは地球が自転から少し傾いているからで、それにより四季があつて、暑かったり寒かったりするのです。

つまり、空はそこにいつもあるようで違っている、あらゆる所を回っていたりして、その土産物を買っていたり……などと考えて書いたものです。

実際どうい原理で起こっているかは分かりません。強風とかでしょうかね？

空を見上げることで、空からの土産物を頂ける。面白い風習だと思いませんか？

それでは、

感想及び一言、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3541u/>

ソラミヤゲ

2011年10月8日02時22分発行